

ジョブがつながって意味を持ち、 キャリアになる

経済学部で私が担当する科目は「キャリアデザイン(carrier design)」と「コンピュータリテラシー(computer literacy)」の2つです。「キャリアデザイン」はみなさんが自分のキャリアをデザインすることの意義を理解し、そのための知識と動機付けを提供するのが目的です。この講義ではキャリアを“職業を中心とした生き方”という意味で捉えます。デザインは辞書的な語義である設計や意匠という意味から少し広げて“意識化”と考えます。したがって、キャリアデザインは“生き方・働き方の(ポジティブな)意識化”といった意味になります。

「コンピュータリテラシー」は大学生が勉学に必要な、たとえば情報検索、データの加工、レポートの作成や発表等に必要なコンピュータ(パソコン)についての最低限の知識と基本的な操作スキルを習得することが目的です。

この2つの科目はいずれもカタカナの名称であること以外、あまり関係がないようなのですが、私のキャリアの中では意味があるのです。

私は学部時代、経営科学を専攻しました。当時(1970年代前半：まだパソコンが無い時代)、社会科学系の学部でコンピュータを活用した経営の勉強ができるところは少なく、高校時代代理系でノンポリ(nonpolitical：政治問題に無関心)の私は専攻分野に大変興味を持ち勉強しました。在学中、情報処理技術者試験にも合格しシステムエンジニアやコンサルタントの仕事で生きていこうと考えました。

出身高校の大先輩で数理統計学の川田先生のしびれるほど明快な講義、机上の計算で実際の仕事の最適手順や方策を知るというカッコよさに感心した経営科学、ゼミで輪読した“DECISION ANALYSIS(決定分析)”や独学した「経済性工学」。そういったものを通じて学んだ考え方、態度、知識が今も仕事や人生の知的基盤になっています。

これが現在の仕事、「キャリアデザイン」にどのようにつながるのか、続きは講義で。

これが現在の仕事、「キャリアデザイン」にどのようにつながるのか、続きは講義で。



- キャリア・デザイン
- コンピュータ・リテラシー

山口 憲二
(やまぐち けんじ)

経済学部非常勤講師

1955年京都生まれ。神戸商科大学(現兵庫県立大学)卒業。松下電工(株)等勤務を経て群馬大学大学院社会情報学研究所修了。現在の本務校は新島学園短期大学キャリアデザイン学科。関西から群馬県に来て20年。